

2 . 現金過不足

現金の帳簿残高と実際手許有高が不一致の場合,その原因を調査する。

不一致が判明した時

帳簿残高を実際有高に一致させる。

- ・ 現金が足りなければ現金が出て行ったことにする。

- ・ 現金が多ければ現金が入ってきたことにする。

その反対勘定が現金過不足

原因が判明した時

記入漏れなら、記入する。

**同時に で記入した現金過不足を
逆側に記入し消滅させる。**

**決算日まで不一致の原因不明の時
不足の場合⇒雑損（費用勘定）**

過剰の場合⇒雑益（収益勘定）で

処理し、現金過不足を逆記入する。

例題2. 次の仕訳をしなさい。

- 1. 現金の帳簿残高 ¥50,000 に対して
実際有高は ¥30,000 である事が判明。**

/

- 2. 調査の結果 ¥5,000 は光熱費の記入
漏れであることが判明した。**

/

- 3. 決算時、残額は原因不明。**

/

例題2. 解答

1. 足りなければ, 出て行った事にする

現金過不足20,000 / 現金20,000

2. 記入が漏れているなら, 記入する

光熱費5,000 / 現金過不足5,000

3. 最後は理由づけ

雑損15,000 / 現金過不足15,000

現金過不足は, 最後(決算日)には
消せ! 消せ! 消せ!

例題3. 次の仕訳をしなさい。

1. 現金帳簿残高は¥45,000, 手許有高は¥50,000であるが, 原因は不明である。

/

2. 現金過剩額¥5,000は, 決算日になっても原因不明である。

/

現金過不足の大原則は:

例題3. 解答

1. 多ければ, 入ってきた事にする

現金5,000 / 現金過不足5,000

2. 最後には, 理由づけ

現金過不足5,000 / 雑益 5,000

現金過不足の大原則は:

現金過不足：過去問題

解 答

設問 3章-①

次の取引を仕訳しなさい。

1.現金の実際有高が帳簿残高より¥38,000不足していたので、かねて現金過不足勘定で処理しておいたが、その後原因を調査したところ、交通費の支払額¥12,000、通信費の支払額¥21,000、および手数料の受取額¥5,000が記入漏れであることが判明した。なお、残額は原因不明のため、雑損として処理することにした。

2.現金の実際有高が帳簿残高より¥45,000不足していたので、かねて現金過不足勘定で処理しておいたが、その後原因を調査したところ、交通費¥25,000の記入漏れが判明した。しかし、残りの不足額については不明のため、雑損として処理することにした。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	交通費	12,000	現金過不足	38,000
	通信費	21,000	受取手数料	5,000
	雑 損	10,000		

	借方科目	金額	貸方科目	金額
2	交通費	25,000	現金過不足	45,000
	雑 損	20,000		

現金・預金取引 過去問題

次の取引を仕訳しなさい。

- 日商87回 1.得意先世田谷商店に商品 ¥90,000 を売上、代金のうち ¥50,000 は送金小切手で受け取り、残額は現金で受け取った。
- 日商75回 2.得意先東京商店から売掛金の回収として、¥50,000 の郵便為替証書と同店振出しの小切手 ¥500,000 で受け取った。
- 日商92回 3.大阪商店から商品 ¥62,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。ただし、当座預金勘定の残高は ¥50,000 であり、銀行と当座借越契約(借越限度額 ¥200,000)を結んである。
- 日商89回 4.現金の実際有高が帳簿残高より ¥24,000 不足していたので、現金過不足勘定で処理していたが、原因を調査したところ、発送費の支払額 ¥16,000、交通費の支払額 ¥12,000 および手数料の受取額 ¥8,000 が記入漏れであった。なお、残額は原因不明のため雑損として処理することにした。
- 日商90回 現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より ¥1,800 不足していたので、現在調査中である。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				